

「明日の都市解析」への序論

東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻
貞広幸雄

都市解析とは何か？

Googleでみると(2009年9月15日現在),
都市解析: 7140件

その大半は, 旧岡部研究室と何らかの関わりのあるHP
Wikiにはエントリーがない.



未だ一般用語ではない？



都市分析: 12400件

【解析】(広辞苑第5版): 物事をこまかく解き開き、**理論に基づいて研究**すること。

【分析】(広辞苑第5版): ある物事を分解して、**それを成立させている成分・要素・側面**を明らかにすること。



しかし、都市解析と都市分析の二つを合わせても19540件！

ちなみに、

空間解析: 29000件

空間分析: 43600件



Urban analysisではどうか？

Googleで見ると(.jpのサイトを除いて),

urban analysis: 47000件

city analysis: 36300件

geographical analysis: 149000件

spatial analysis: 893000件

http://en.wikipedia.org/wiki/Spatial_data_analysis



気を取り直して...

語源に忠実に従えば,

都市解析, 都市分析とは,

都市を理解し, その成分・要素を明らかにすること

一般形としての空間解析とは何が異なるのか?

都市を空間の一つと見なしたとき, その特殊性は何か?



都市工学的視点から

都市工学科設立の目的：

都市のフィジカルプランナー(すなわち物質的・空間的存在によって形成される諸環境の計画とデザインを行う者)の教育・養成、ならびに都市問題に対処する**工学的**研究・教育にあり、その対象領域は都市を中心としながらも、都市的生活領域の拡大や全地球的都市化にともない、農山漁村を含む地方圏や国土全体、さらには地球環境全体におよぶ。また、**工学技術にその基盤を置く**ことは当然であるが、工学部の中では、法学、経済学、社会学、歴史学、心理学、美学、哲学など社会科学・人文科学と密接な関係にある専門分野である。



工学：数学と自然科学を基礎とし、ときには人文社会科学の知見を用いて、公共の安全、健康、福祉のために有用な事物や快適な環境を構築することを目的とする学問である。
(工学における教育プログラムに関する検討委員会(1998))

科学と対比して、ものづくり、という言葉でしばしば表現される。



都市工学における都市解析とは

工学技術を用いる都市工学に資するために、都市を分解し、それを成立させている成分・要素・側面を明らかにすること。

都市解析は、必ずしも工学技術を用いるわけではない。

工学技術の利用、具体的なものづくりを常に念頭に置いた解析を行うことが肝要である。



analysis (Oxford English Dictionary):

1. the detailed **study or examination** of sth in order to **understand** more about it; the result of the study
2. a careful **examination** of a substance in order to find out what it **consists of**

対象を理解し、その成分・要素を明らかにすること

